

ひと あい えどがわ

No.16

発行日 / 2011.3. 1

創刊日 / 2007.4.10


<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

“Dreams come true” 夢 に向かって! [7期生特集]

江戸川総合人生大学には昨年10月も
大学で感じたことや今の夢を語ってもらう。

多くの仲間が入学。その7期生の皆さんに
今年入学を考えている皆さま、是非ご参考に。



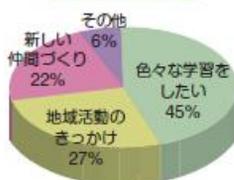
D どんなときも
R 理想を描き
E 笑顔でつながる江戸川の
A 明日のために
M 学び集う 我が夢のため

御衣黄（ぎょいこう） / この淡い黄緑色の花をつける珍しい樹は、江戸川区東葛西にある区立雲（いかつち）公園で9～4月に咲く八重桜の一種です。天皇の即位の時に身につける衣裳の色ウコンで知られています。（写真：まち6期 川名）

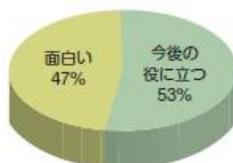
【7期生アンケートより】

昨年10月に入学したフレッシュな7期生に、どんな思いでこの大学に入学したのか、今どのように感じているのかについて、アンケートを実施しました（回答者：75名）。これからの学び、出会い、人とのふれあいを大いに楽しみながら、自分を活かせる活動を通して、地域に「活力の輪」を拡げて行きます。

入学の動機



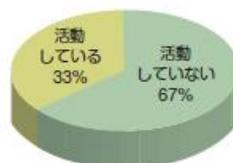
大学の講義



学内の雰囲気



ボランティア活動



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
(* 学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

夢はまだ定まらなくても、

学びを大いに楽しんでいる

7期生の今思う
“夢”とは！

江戸川まちづくり学科



水と緑のまちづくりを夢見て

39年間のサラリーマン生活を終え、退職後の人生を考えるなかでもっと江戸川区のことを知りたいと思い、インターネットで知った「江戸川総合人生大学」に入学。江戸川まちづくり学科に所属し、フィールドワークやえどがわ入門の授業を通じて、江戸川区では行政、NPO、関係団体が相互に連携しネットワークを構成、豊かで住みよいまちづくりに取り組んでいることを知りました。

まだ学びの途中で将来の夢は模索中ですが、卒業後はこうした活動に参加し、江戸川区の特徴である水と緑を活用したまちづくりに貢献したいと密かに夢見ています。

(まち7期：S.S.)

自然環境との関わりを目指して

私はこの江戸川区の農業また農地がこれ以上都市化にならぬよう、何とか保全できないものかと思っています。

近年、若い世帯の中には「週末ファーマー」といわれる人たちが全国的に増えつつあります。江戸川区でも若い人たちが農業に関心を持てるような企画立案のもと、例えば親子で田植をしたり、土や水、苗木に触れることで、子どもたちの将来においても自然に対する見方が大きく変わってくるのではないかと考えています。

私の夢は農業(土壌)との関わりをなかで、人間形成をもできるような活動を実現できればと、強く感じ始めています。

(まち7期：O.K.)



グループワークの様子(子ども7期)

国際コミュニティ学科



私たちの夢

私たちの夢は学科を学び終えたら、教わった知識を基に地域に役立つ活動をする事です。クラスメイトや学科の先輩の知識・経験談を伺いながら連帯感を高め積極的に行動したいと思います。

クラスには海外在住の長かった人、外国を多数訪れたことがある人、仕事を通じ外国の方と交際している人など多数在籍しており、

また外国語の出来る人もいるので、地域の外国人コミュニティの立ち上げに大変心強いメンバーだと思っています。

外国では、ボランティアやチャリティ活動などへの参加が積極的のように思います。その点、比較すると日本人は消極的ですが、私たちはライフワークとして人生大学の仲間と一緒にボランティア活動を行い、地域に貢献できるよう努力したいと考えています。

江戸川区在住の外国人の方にアドバイザーとしてコミュニティづくりに協力することも大きな仕事と考えます。

健康で明るい生活と共に、江戸川区が行政もコミュニティも日本の自治体の模範となるよう、勉強し行動したいです。夢の実現に向けて全員協力してがんばります。

(国際7期：矢島、寺本)

子ども支援学科

夢をつなぐみんなの声

(1)動機

◆学ぶ楽しさをもう一度味わいたいと思い、入学を決意した。それと同時に、未来を担う子どもたちのために、彼らが身近に自然と触れ合い、虐待やいじめのない環境づくりに貢献したい。

◆子育てが一段落した今、子育ての中で学んだことを活かしていきたい、もっと子どもへの理解を深めたいという思いがわき、入学した。

◆大学に入った動機は、「生きがい」を見つけること。今はまだはっきりと分らないけれど、卒業する頃には見えてくるかもしれないと思う。



(2)希望

◆保育、障がい者支援にトライ！！

◆子どもの気持ちを少しでも理解できるようになりたい。

◆地域全体で子どもを育てる『孤立しない子育て』を実現したい。地域に暮らす皆で子どもを見守る体制づくりをしていきたいと思う。

(3)目標

◆未来を築く子どもたちと、その子どもを育てる親のために、わずかでも力を尽くしたいと考えている。

◆発達障がいのあることを多くの人に理解してもらい、偏見のない社会にしたい。特に、幼児期から就学後へと続く問題をなぜそうなってしまったのか考え、応援していきたい。

◆一人ひとりの子どもたちを幸福にしたい。そのために今私ができることは、この大学でしっかり学んでいくことである。

◆自身の経験から、学校支援・学習支援の必要性を強く感じる。今、学校現場は教員だけで対応することが困難な課題(学力格差や不登校など)を数多く抱えている。そのような現状を少しでも改善していきたいと考えている。

◆年齢に関係なく、勉強の話であろうと何であろうと楽しく語り合う仲間を持ちたい。そのために努力する自分でありたい。

(子ども7期：鹿野、丸田)

介護・福祉学科

私たちの夢

◆グループ、団体等で社会貢献しながら大学2年間を学び、何か結果を残すこと。

◆高齢者や障がい者などの社会的弱者と言われている人たちが自分らしく生きることができるようなお手伝いをする事。

◆大学を通して学んだことを活かし、様々な事に挑戦し自分の心と今後の人生を豊かに送ること。

◆知らないことをいっぱい吸収する楽しさや、知る喜びを通じて自分を成長させること。

◆大学での学びを通して、人に対する思いやりや気配りが自然と出せる人間関係を築き、ご近所、地域に広げ、楽しく充実した日々を過ごすこと。

◆町内会の中に「おしゃべりサロン」を開くこと。人とのコミュニケーションを大切にしていきたい。

◆自分が「これだ！」と思うものを学ぶこと。

◆大学を卒業すること。

◆身近な介護のことに役立てたい。

◆やりがいを感じられることに会って、死の前日まで働いていたい。

◆難しい問題なのでまだどのように関わったらよいかわからないが、児童虐待を少しでも無くす、減らすことに関わりたい。

◆地域の人たちに接して自分にできることをみつけること。

◆介護・福祉の学びを通じて、新しい目標(何ができるか、何をしたいか)を見つけたい。

◆自分に何ができるのか、楽しみながらできることを探していきたい。

◆チャレンジする気持ちを持って夢を作っていきたい。



(介護7期：滝川、齊藤)

ボランティアセンターより ボランティア保険の新年度分受付が始まります！

ボランティアセンターでは、ボランティア活動中のケガや事故に備えるための「ボランティア保険」の受付を行っています。ボランティア活動を安心して行うために、ボランティア保険に加入することをお勧めします。

- 【概要】
- ・傷害保険と賠償責任保険がセット
 - ・掛け捨ての年度保険(4月1日以降受付翌日から翌年3月31日まで適用)
 - ・保険料は300円から1,400円までの6プラン
 - 平成23年度分の加入手続きは、3月中旬からボランティアセンターで受け付けます。3月26日(土)・4月9日(土)午前10時～12時、清新町ボランティア活動室で出張受付を実施します。

- 【持参するもの】
- ・加入者名簿(氏名、住所、電話番号、加入プラン)
 - ・ボランティアセンターに登録している団体・個人は保険料の助成があるため、団体代表者または個人登録者の印鑑。

【お問い合わせ】 ボランティアセンター
住所：江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス1階 電話：5662-7671 FAX：3653-0740

えどがわエコセンターより 第5回もったいない運動えどがわ区民大会 開催！

- ◆第5回もったいない運動えどがわ区民大会◆
- 日 時：平成23年3月5日(土) 13:30～15:30
- 会 場：タワーホール船堀5階 大ホール
- 参加方法：申し込みは不要。会場に直接おこしください。(12:45開場、13:30開会)

もったいない運動えどがわ区民大会では、地球温暖化防止につながる多くの取り組みが紹介され、表彰されます。あなたにもできる取り組みがきっと見つかります。ぜひ、会場に足をお運びください。

【会員募集中!】 エコセンターでは多くの方が会員になって、様々なエコ活動を広めています。あなたも参加しませんか?詳しくはエコセンターまで。

問合せ先/特定非営利活動法人えどがわエコセンター ☎5659-1651



昨年(第4回)の活動紹介のようす

江戸川区を知る<第2弾>

住んでいても意外と知らない自分たちのまち。シリーズ第2弾として、江戸川区立松江第二中学校の遊佐照雄先生に葛西について3回連続で執筆していただきます。

愛しきわがまちの軌跡①

「雷」ってどんな街

遊佐照雄

江戸川区の葛西の東(江戸川沿い)に「雷」という街があります。「雷」とかいて「いかづち」と読みます。しかし、いかづちと読む人は少なく、カミナリと読む人が多いのです。雷には大般若という変わったお祭や葛西弁などの文化が今でも残っています。

雷の名の由来は、真蔵院(天文年間1532-1555に開山)というお寺に祀られているお不動様が「雷不動」と呼ばれているところから付けられました。

雷という言葉の成り立ちを見てみると、「雷(いか)」のあとに「ツ」という助詞がついて、その後に「チ」がきます。「雷(いか)」は雷(いかし)という形容詞で、「あらあらしい・たけだけしい・おごそか」等の意味があり、「チ」は霊(はかり知ることのできない力のあること・目に見えない不思議な力のあることやもの)を表します。つなげると、「いかづち」となり、あらあらしい・たけだけしい・たけだけしい(霊(靈魂)・あらあらしい不思議な力ということになります。古来、「雷」は

「いかづち」と読まれた方が先で、「カミナリ」と読まれるようになったのは後からです。

雷不動は不思議な力を持っていたという伝説があります。

時化で転覆しそうになった船がこの寺の松にいた大蛇の目の光に導かれて、助けられた。漁師たちは大蛇が残っていた剣をこの寺の不動明王にお供えし、その剣で雷(カミナリ)を退治したという伝説があり、「雷不動」と呼ばれるようになった」とのことです。

ですから雷の地域では、雷(カミナリ)が落ちないといわれています。

雷の真蔵院のおばあさんから聞いたお話です。

戦前、真蔵院に鐘撞堂がありました。そばには大きな松の木がありました。青年団の人達がワラで大蛇(約9m)をつくり、松の木にぐるぐると巻き付けました。大蛇の首には木製の宝剣がつけられました。鐘撞堂のわきの松にワラで作った大蛇を巻き付けるようになったのは、前にも述べた真蔵院に残る伝説によるものです。雷の人たちは、毎年ワラの大蛇を作って、海上の安全を祈りました。

いつしか松も枯れ、戦時中にお寺の鐘は供出されて、なくなりました。

戦後、真蔵院のおばあさんはバスの車窓から鐘が山のように置かれた場所を偶然に見つけました。その中に真蔵院の鐘がありましたが、残念ながら返してもらえませんでした。

真蔵院では、戦争が終わってから、雷で江戸時代から行われていた大般若の祭りを再び行うようになりました。



(雷不動明王と真蔵院)

次回は、「大般若の祭り」の予定です。

豆知識: 葛西弁で「葛西(かさい)」は「かせえ」、「見つける」を「めつける」などと言います。

同窓会の窓



6期生の皆さん、あと半年で卒業ですね。信じられないほどの大勢の仲間ができたことと思います。振り返りますと、誰も知人のいない江戸川区で私が生活を始めたのは9年前でした。人生大学のことを知り「何か別の世界があるのでは」という思いで入学したことを覚えております。ただがむしゃらに、仲間作りに励みました。言葉で言い尽くせない仲間が大勢できました。

7期生の皆さん、人生大学に慣れましたか。社会人からのソフトランディングに戸惑っておられる方、皆さんといっしょに考えましょう、今後のことを。少しだけ先輩(年齢でなく入学年度が)として語り合しましょう。

同窓会も卒業生の90%(全入学者比では72%)の方に加わりたいと考えております。平成20年4月に発足し、現在4期目を迎えています。卒業後の様々な活動を共に推し進めようという考え方を大事にし、今後も皆さんと一緒に人生大学を盛り上げたいと願っております。

(同窓会会長 島田)

地域活動グループ紹介

【江戸川国際交流びわの会】～ For から With ～

びわの会は、「江戸川区の外国人の皆さんを応援したい!」という江戸川総合人生大学国際コミュニティ学科4期生の熱い思いから発足した地域活動グループです。

やさしい日本語教室や国際交流イベント、野外バーベキューパーティなど様々な活動を通じて、外国人の方々と一緒に楽しみながら地域の和を広げていくことを目指しています。

会のホームページでは、外国人のための生活情報や防災情報、日本語教室やボランティア活動グループの紹介など、より身近なお役立ち情報をご案内しています。ぜひご覧ください。

世話を務める江ヶ崎さん、大塚さんのお話では、現在の活動を長く継続させていくための人材の確保、ホームページの充実が今後の課題であり、人生大学の卒業生、在校生を中心とする地域活動グループのネットワーク作りにも取り組んでいきたいとのことでした。「びわの会」ホームページ: <http://kokowith.web.fc2.com>

(国際6期: 田代、安武)



編集後記

今回「ひと あい えどがわ」第16号は、7期生を中心に学生の(夢)をお届け致しました。いかがでしたでしょうか。皆様のご感想ご意見を是非お聞かせ下さい。お待ちしております。そして私たちの「江戸川総合人生大学」を心にとめて頂ければ幸いです。

編集長 小谷勝彦

編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

- 【5期生】金子律子、坂井敏子(まち) 杉山力、細谷久子(国) 小杉裕子、熊倉広美(子) 木元和子、宮道益江(介)
- 【6期生】川名信義、小林隆子(まち) 田代耕太郎、安武和子(国) 小谷勝彦、高津陽子(子) 伊久美明、川本幹子(介)
- 【7期生】井上真、齋藤彰吾、林明廣(まち) 寺本孝行、矢島芳男(国) 鹿野恵子、丸田法子(子) 滝川幸郎、齋藤史帆(介)